

【学校教育目標】 豊かな心と知性にあふれ、たくましく行動できる子どもの育成

【学校経営の重点】 学校教育目標の達成に向けて、教職員が一体となり、子どもが「自分を、学校を、地域を誇りに思う」活力ある学校づくりに向け、「考える子ども」（知）「やさしい子ども」（徳）「すこやかな子ども」（体）のバランスのとれた児童の育成をめざす。

1. 授業力の向上と各種学力向上の取組による確かな学力の定着と向上
2. 全校縦割り班活動や児童会活動、学校行事等による豊かな心の育成
3. 体育的行事と日々の取組をつなげることによる健やかな体の育成

【児童の実態】 ○個人差は大きい。学年によっては、下位層が多い。○算数科において、自分の考えノートに書き、交流する中で、自分の考えと比較することができる。○既習事項を使って、課題に対して自分の考えを表現できない児童がいる○説明する力に欠ける～語彙力や文章構成する力が不足○内容の読み取りが弱い～表面的な読み方をする。○家庭学習の習慣が徐々に身につけてきたが前学年学習内容が定着おらず当該学年で学習につまずく児童がいる○活用問題に苦手意識をもつ児童がいる。

取り組みの評価内容	1学期自己評価	2学期の取り組み	
1. 個に応じた指導及び南小タイムの充実	○単元末テストの目標達成平均点～全学年 85 点以上且つ、60 点未満を 5%以下にする。	国 86.8 点 算 85.6 点 60 点未満 4.8%	・進度にそった家庭学習をしたり、類似問題を授業で扱ったりして問題に慣れさせる。 ・4～6年の習熟度別学習では、下位層が主体的に学習できる場を設定する。
	○各種学力調査（5・6年）及び全学年対象学力標準調査（算数）全国・大分県全項目平均以上	5年、6年も県、全国平均以上 4年1月実施	・書く活動を中心とした授業を行うとともに、類似問題は解説を加えて、解き方を指導する。
	○「南小タイム」の計画的な実施国語（弱点克服）算数（活用問題）	実施している。	・計画にそって継続して取り組む。
	○テストや家庭学習の間違いのやり直し 100%	実施している。	・やり直しの時間を確保し、必ず全員が 100 点になるように指導をする。
	○学校図書館活用 年間読書数 170 冊以上 未読0をなくす。	1 学期一人あたり 55.3 冊	・3 冊貸出を継続して取り組む。 ・秋の読書週間の取組を工夫する。
2. 「校内研究」（「思考力・判断力・表現力を育む算数科学習のあり方」解決に向かう問いのあり方を中心に）の充実を通じた授業力の向上	○「学校の勉強がよくわかる」児童 95%以上	90.9%	・校内研究の充実で授業力をさらに向上させる。
	○新大分スタンダードの授業「めあて」「課題」「解決に向かう問い」「まとめ」等を位置付けた問題解決型の授業 95%以上	94%	・校内研修の時間の充実（授業力向上、各種研修の報告・還流の時間の確保）
	○「板書とノートの一体化」（字や書き方）を指導している。	100%	・学年で統一した指導を継続して指導をする。
	○授業の中で書く活動を 2 回取り入れた言語活動の工夫（「書くことができる」児童 95%）	89.3%	・書く時間の保障をするために、授業の時間配分や組立を工夫する。
3. 家庭や地域等との連携による基本的な生活習慣の定着	○校内研修への主体的な取組 100%	96.9%	・継続して取り組む。
	○新版「家庭学習のすすめ」の定着（学年×10分+10分） 90%以上	78.4%	・新版「家庭学習」のすすめの実施
	○毎朝朝ご飯を食べる児童の育成	93.2%	・通信で家庭にもよびかける。
	○挨拶ができる児童の育成	85.5%	・継続して取り組む。
	○無言そうじの徹底	89.9%	・継続して取り組む。